

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
法哲学 (53 期～)	竹村 和也	講義	2		1, 2, 3	1, 2, 5	2, 3, 4
授業概要 授業目的	本講義のねらいは、まずは法についての様々な考え方について学ぶことです。いわゆる法思想と法理論を関連させて授業を行います。さらに学んだことを活用して、様々な法現象について考えます。法哲学は抽象的な学問であると敬遠されることもありますが、日常生活の問題や社会問題とも密接な関係があり、これらの問題について自分なりの思想を身につけることができるようになることが目的です。授業では、なるべく議論を行いたいと思います。議論の楽しさを理解し、実感してもらえればよいと思っています。						
到達目標	①法理論についての基本的な知識を身につける。 ②法思想についての基本的な知識を身につける。 ③上記の知識を具体的な議論の中で活用できる。						
回	学習内容						
1	イントロダクション・あるべき法や社会についての思想の分類について						
2	ギリシャの法思想（アリストテレス）と正義の分類						
3	ホブズ・ロックの社会契約論とロールズ・リベラルな正義論						
4	ギリシャ後期の法思想と国際社会における正義の問題						
5	スコットランド啓蒙思想とリバタリアニズム（自由至上主義）						
6	バークの思想とコミュニタリアニズム(共同体主義)の正義論						
7	「ハーバート白熱講義」とコミュニタリアニズム(共同体主義)						
8	ベンサム of 法思想と帰結主義						
9	J. S. ミルの法思想と功利主義の展開						
10	カントの法思想と義務論						
11	キリスト教の法思想（アキナスの法思想）と自然法						
12	イギリスの法実証主義と悪法の問題						
13	ドイツの法実証主義と司法裁量論						
14	アメリカのリアリズムと司法裁量論						
15	授業の確認と試験						
予習内容 復習内容	予習：授業で配布・指示する資料に目を通すこと。 復習：授業で配布した資料を読み直すこと。小レポートを課した場合にはその作成。						
教科書	テキストは使用しません。授業ではパワーポイントを利用しますが、そのスライドを毎回配布します。参考文献として、深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房, 第2版, 2015年）他の参考文献については随時授業で指示します。						
成績評価	試験 80%、レポート 20%。5回を超えて欠席をした場合、試験の受験資格はありません。						
実務経験							
その他 特記事項	大学生として当然のことですが、社会で起こっている様々な問題に関心を持つということ、また新聞に目を通すということが必要です。						